令和５年度第１回森林（もり）の未来を考える懇談会　発言要旨

１　日　　時　令和５年７月２６日（水）
２　場　　所　中町ビル　２階会議室
３　出席委員　８人
４　議　　事

（１）議題イ「令和４年度森林環境基金事業の実績について」について
事務局が資料２により説明し委員の意見を求める。意見等は次のとおり。

【白井委員】

令和４年度の里山林整備事業は、単年度の事業なのか、継続事業でやっていくものなのか。

【森林保全課長】

里山林整備事業については、基本的には単年度で実施している。緩衝帯整備では同じ団体が複数年度にわたって緩衝帯整備等を実施しているところが多い。

【鈴木委員】

森林環境情報発信事業に関してですが、パンフレットの配りかたやＰＲ方法をお伺いしたい。

【森林計画課長】

パンフレット及びポスターについては、新幹線の改札奥に木材を使った椅子の設置やポスター掲示をしている。なるべく目に見えるようなところにポスターを掲示していきたい。

パンフレットの配布先は林業関係の団体、市町村、並びに県の出先、県庁県民ホールに置いて、周知には努めている。

【太田委員】

昨年度から始まった里山の銘木・鎮守の森診断事業は、どんな活動しているのかお聞きしたい。

【森林計画課長】

事業内容としては、町の銘木、鎮守の森の現況を調べることから始めている。

樹勢を調査した後に、保全の必要があるかや保全方法などの診断を行っていく。

【菅野委員】

先日、新聞で林業アカデミーふくしまの募集が載っていた。令和４年度の第一期生が今年就業したと思うが、どういった方々が資格等を取得し、県内の林業に携わっているのか。

【森林計画課長】

林業アカデミーは、県の森林環境税は活用せず、国庫補助と森林環境譲与税を活用している事業になる。

林業アカデミーふくしまの第一期生は１４名で女性が１名、年代は１０代から５０代まで。１４名が全員、林業事業体もしくは森林組合に就職し、林業機械を使う資格を取得している。

今年度は１６名が入り、８人が１０代、３名が女性。

アカデミーをＰＲすることによって、林業従事者が増え、皆さんの目にとまる。

林業が認知されつつあるのでアカデミーの取組もしっかり続けていきたい。

（２）議題ウ「令和５年度森林環境基金事業の実施について」について

事務局が資料３により説明し委員の意見を求める。意見等は次のとおり。

【白井委員】

(新)木造建築物等整備促進事業について、どういう方向性なのか教えてほしい。

【林業振興課】

今のところ、建築物の中でも中小規模の事例を集めていこうと考えている。中小規模の民間の事務所を造るなど民間の一般住宅にスポットをあてて、使ってもらえるような事例集を考えている。構造や内装の情報を集めてやっていきたいと思っている。

【白井委員】

それは県内の事例を集めたものか。

【林業振興課】

福島県の県産材を使った事例集という形でやっていく。

【鈴木委員】

森林機能向上事業について、令和４年度と比較して約２割減となっているが、どうして要望が少ないのか、事業の見直しも必要ではないか。

【森林計画課長】

森林整備事業の大枠は 101%あり、主に間伐を行う森林機能向上事業では要望が減ってきている。

一方、広葉樹林化、再造林を行う森林機能維持事業は徐々にニーズが高まっている。それらを合わせると全体の要望は増加している。

今まで、手入れが遅れた人工林の間伐を中心に行ってきたが、伐採期を迎え立木が大径化している。製材工場が大きな材に対応しておらず、手間がかかるため、価値が下がっており、そういう部分が事業要望に現れている。

森林整備事業の枠のなかでニーズに合わせながらやっていく。

【白井委員】

大径木で価値が下がっているということだが、大径木専門でやる製材所があり柾引きすると価値が上がる。手間がかかる仕事なので、価格の安くなった大径木が高く売れる。製材の仕方で価値が上がるので、そういったことをするとメリットがあると思う。

【森林計画課長】

貴重なご意見ありがとうございます。

大径材については、このままではいけないという現状認識はしており、試験研究機関でどういう風に採材や流通をしたら価値が上がるのか研究している。

模索中ではあるが大径木の利用を考えているところ。

【白井委員】

森林林業は特殊な事情があって、立ったままの大径木は無価値であって、伐採、搬出、市場にもっていき、製材所で加工すると価値が生まれると思う。製材所側の営業努力があると思う。大径木をつくろうと思って作っているわけでなくて、伐っても売

れないので山に放置されている。
今回の森林環境税の使途において、いろんな問題があり、解消するために細分化された事業があると思うが、立木や丸太の価格が上がると半分くらいの事業は、やらずとも解消できる状況になると思う。森林所有者で山の手入れをしていない人の山に行く気持ちが上がり、山を業者にお願いして伐ってもらえば収入になるといった状況になれば、問題は解決されると思う。山に意識が向く施策を考えてもらえないか。

【森林計画課長】
資源としてはあるが、材を出すだけの人や体力がなくなっている。
追い風のように国からスギ花粉対策でスギを使い、植え替える取組が推進されている。それは今までやってきた林業の取組を加速させ、それによって花粉症の対策がなされる。そういったことをしっかりやっていって、山主に資産価値があることを認識していただく。
森林環境税の取組である豊かな森林を次の世代に残していく「伐って、使って、植えて、育てる」を続けていき、PR していく。重要な取組と考えており、しっかりやっていきたい。

【根本委員】
森林情報（クラウド）活用推進事業について、現状どういった方が使っているのか。

【森林計画課長】
森林簿と森林計画図があって、それを電子化したものが森林 GIS。
それを森林 GIS だけやると外部との連携が難しいので、クラウドに載せ替えたものがクラウドシステムになる。
県と市町村がこれまで使用していたが、林業事業体や森林組合にも公表して使っていただこうというところで図面と森林資源等について公表している。現在、登録者のみであるが、今年度から試験的に事業体も参画できるようにしている。
後々、様々な方にも活用していただこうと考えている。

【根本委員】
林業事業体の方は高齢の方も多いので、活用してもらえるようハウツーとかの事業も付随してやるといい。

【森林計画課長】

林業アカデミー短期研修の事業体向け講座や森林クラウドシステムの説明会を実施している。

【根本委員】

ドイツでは木１本ごとにバーコードを付けてクラウド上で管理しており、市場がなく、業者がどこにどんなサイズの樹種がどの山にあるのかわかるデータベースがあり効率的と聞いているので、福島県でも取り組まれているのはすばらしいと思う。

（３）その他

【根本委員】

県民の方に森の良さを周知する事業はあると思うが、県外の方にも福島県に来て森を体験してもらい、一緒に県民の方にも体験してもらうことで、自分たちが素晴らしいところに住んでいると認識してもらう機会があってもいいのかなと思う。

今後、県民以外の県外の方を巻き込んだ事業を考えているか教えてほしい。

【森林計画課長】

東京都と福島市では協定を締結して、森林環境譲与税で子どもたちを呼び体験する活動が行われている。少しずつ事例が増えてきている。都市部の方では森林環境譲与税の配分が多く、他の地域との交流に目を向けているところもあるので、今後、都市と山村の交流が進むのではないかなと思う。

今後、県でもマッチングや問い合わせがあれば積極的に行いたい。

また、企業の社会貢献として、森林で活動する企業の森林づくり事業を福島県内でやりたいという話しもあり、マッチング作業をしながら参画を求めている。